概要版

福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針

福岡市歴史文化基本構想

平成 31 年 3 月
福　岡　市

1 策定にあたって

策定の背景

恵まれた自然と豊かな歴史に育まれた福岡

本市は、古来、大陸に対する玄関口の役割を果たし、**対外交流の拠点**となってきました。

海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市をめざして

本市は、平成 24 年改定の「福岡市基本構想」において、**本市固有の歴史や文化**と融合した**都市の魅力**と**多様な交流**が新たな価値を創造し、世界の人々をひきつける都市をめざす都市像として掲げています。

文化財を取り巻く状況

本市は、人口増加に伴い、都市機能が次々と更新されており、地域コミュニティの変容等によって地域の文化財の価値が認識されないまま失われてしまう可能性があります。

策定の目的

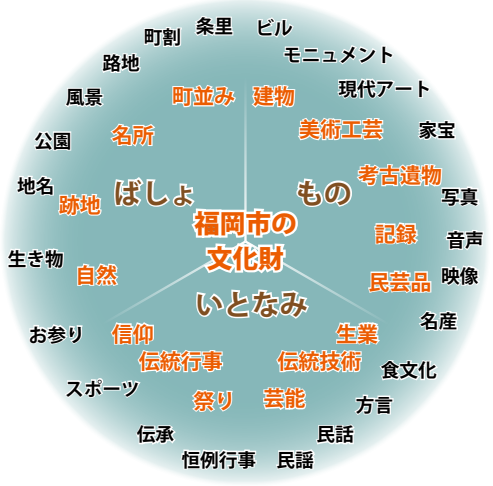
本方針は、地域コミュニティの変容など文化財を取り巻く状況の変化に対応しながら、多くの人が参画し**社会全体で将来にわたって文化財を継承**し、**都市のさらなる活力と魅力**につなげていくために、文化財の総合的な保存活用の方向性を示すことを目的とします。

文化財とは

市民が過去から受け継ぎ、次世代に伝えたいと思う「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」

一般的には、「指定文化財＝文化財」と受け取られがちですが、指定や未指定、類型の別を問わず、**本市の歴史や文化等の理解のために必要なすべての歴史的所産**を「文化財」と捉えることができます。

また、すでに文化財と認識されているものだけではなく、時代や社会の変化とともに、市民が将来に残し伝えたい文化財の範囲が広がっていくことを想定し、右の図のように整理します。



福岡市の歴史文化の特徴

海を通じた交流を軸に アジアの交流拠点都市として発展を遂げた
2000 年を超える歴史文化の重層性

本市は、2000 年以上、多様な文化と交わりながら進化してきた都市が重層的に形成されてきました。そのような歴史文化の重層性を背景に、現代においても独自の文化が息づく九州最大の活力ある都市として発展を続けています。

2 福岡市の歴史文化を物語るストーリーとエリア

メインストーリーと歴史文化エリア

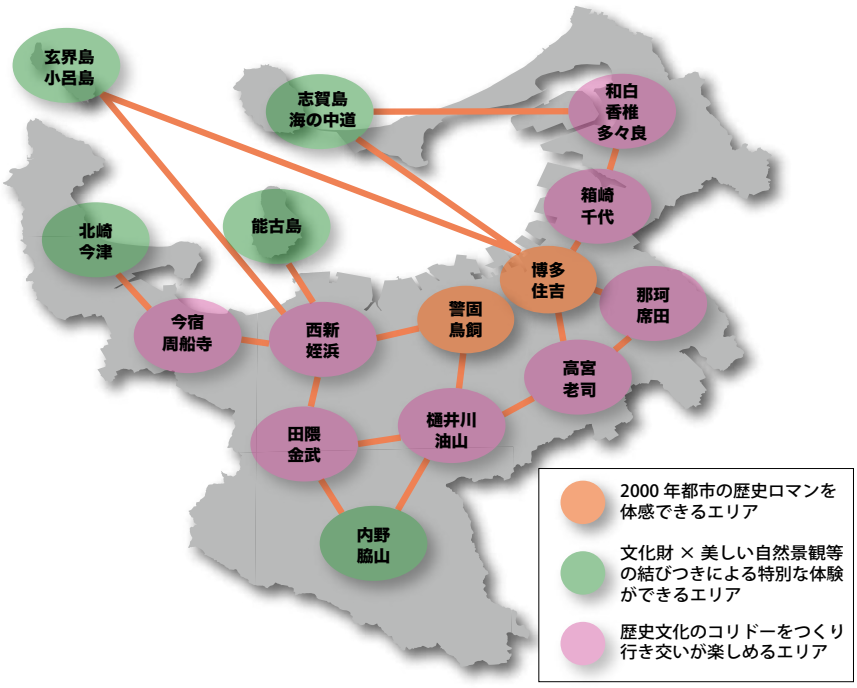
文化財は、地域の歴史の流れのなかで相互に関連し合い、一定の広がりを持ちながら成立しています。そのため、まず文化財がどのようなストーリーのなかで成立したのかを把握することによって、**個々の文化財を線で結びつけ、さらに周辺の環境も含めて面として保存活用**していく必要があります。本方針では、本市の歴史文化の特徴をわかりやすくまとめた物語を**「メインストーリー」**、さらにメインストーリーを体感する面的な広がりを**「歴史文化エリア」**として示し、市民の身近にある「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」が地域の歴史文化を伝えるかけがえのない文化財であることを、市民全体で共有する取組を進めます。

メインストーリー

本市は、2000 年以上前の弥生時代からヒト、モノ、情報があつまる都市が「始まり」、国際交流拠点であった博多湾を中心に「賑わい」、海や陸を通じた各地との「繋がり」のなかで発展し、外に対する「護り」を固めながら、都市と周縁地域との「支え合い」のなかで、重層性のある歴史文化を形成してきました。また、そのようなストーリーを物語る文化財が、市内各所に豊富に残されています。

歴史文化エリア

歴史文化の視点から市内全域を 15 の歴史文化エリアに分け、各エリアの特徴を示します。今後は、各エリアの現在のまちづくりの方向性や地域コミュニティの特性を踏まえ、文化財の保存活用を戦略的に進めます。



<メインストーリー>

始まる　福岡・博多の「はじめて」ものがたり

本市は博多湾という天然の良港にめぐまれていたこともあり、古くから海を介して大陸や半島と交流してきました。その結果、最先端の文化が続々とこの地にやってきました。日本の食文化の基盤である米作り、中世の禅宗やそれに伴う喫茶、粉食の文化など、福岡・博多には各時代の、そして多くの「日本初」があります。これらは、本市の文化を形成する原点となりました。

賑わう　福岡・博多 2000 年のまちのにぎわい

博多湾を臨む本市には、多様な目的や背景をもった人々が集まり、古くから活発な経済活動が行われてきました。およそ 2000 年前の「奴国」以降、中世の国際貿易都市「博多」、江戸時代の城下町「福岡」、そして、現在、150 万人以上の人口を擁する「福岡市」に至るまで、活気ある都市として成長を続けています。そのなかで、信仰、工芸、行事や祭り、食文化など、本市特有の都市文化が育まれました。

繋がる　ヒト・モノ・情報をつなぐ海・陸・空の結節点

本市は古くより海路や陸路を通じて人々が往来し、物資や情報が集散する地域でした。大陸と日本をつなぐ外交･交易の拠点であった鴻臚館、江戸時代の流通ネットワークを担った街道と廻船など、各時代を通じて福岡・博多はヒトとモノ、情報をつなぐ結節点として機能しました。そして、博多駅・天神を拠点とする各種鉄道、高速道路、博多港湾、福岡空港といった海・陸・空路の交通網は、本市と国内外を有機的に結合させ、都市のさらなる発展を支えています。

護る　国際交流都市のまもりと平和への祈り

本市は、人と文物が活発に行き交う国際交流都市である反面、侵攻・侵略などの脅威にさらされてきました。最新の技術や文化を吸収できる立地の代償として、国家間の緊張が高まると、一転してまもりの最前線となったのです。防人の設置、元軍の遠征と石築地の築造、戦国時代の戦乱、福岡大空襲などの数々の悲しい出来事を物語る文化財が市内各所に残されており、争いの恐ろしさと平和の尊さを伝えています。

支え合う　都市と村々の暮らしと信仰

本市の歴史的な生活空間は、河口部に発達した都市とそれを取りまく農村・漁村、その背後の山村から成り、この空間では様々な生業を持つ人々の数多くの生活と信仰が積み重ねられてきました。仏教は都市に定着して中世には博多禅が開花する一方で、周縁の山地や沿岸部にもまた寺院が営まれました。平野の村々では農耕に伴う祭祀が行われ、人々の願いや祈りは様々な民俗として地域に定着しました。都市と周縁の村々は互いに支え合いながら、一つの文化圏を形成してきたといえます。

＜歴史文化エリア＞

志賀島・海の中道

博多湾の玄関口にある志賀島と、国内でも珍しい砂州・海の中道があるこのエリアは、金印「漢委奴国王」発見の地として知られ、古代の海人・阿曇氏が祖神とあおいだ海神をまつる志賀海神社、元寇の激戦を物語る蒙古塚などの文化財があります。また、『万葉集』にも詠われた漁撈や塩づくりの痕跡が海の中道遺跡で見つかるなど、海とともに生きた人びとの文化や大陸との交流の歴史が残されています。

和白・香椎・多々良

『万葉集』にも詠われた景勝地・香椎潟があったこのエリアは、香椎宮が鎮座し、神功皇后の三韓征伐に関連する伝承が多く残されています。戦国時代には、筑前国を与えられた小早川氏が名島城を築城、関ヶ原の戦い後には筑前国に入った黒田氏によって香椎宮が再建されました。戦前には、名島に水上飛行場、雁の巣に飛行場が置かれ、日本の空路を支えました。

箱崎・千代

923 年に創建された筥崎宮が鎮座するこのエリアは、門前町として、また博多に次ぐ貿易の拠点として賑わってきました。江戸時代には唐津街道の宿場町としてにぎわい、参勤交代の中継地として御茶屋が設置されました。街道沿いには、商家が立ち並び、千代町には福岡藩主・黒田家の菩提寺である崇福寺も創建されました。近代には九州帝国大学が誘致され、福岡市の近代化の礎となりました。

博多・住吉

古代から交易の拠点として発展してきたこのエリアは、中世貿易都市・博多の名残や太閤秀吉の町割、近世の町家、近代以降の都市の発展を重層的に感じることができます。住吉神社や櫛田神社といった由緒ある神社や、聖福寺や承天寺に代表される寺町が景観を形成し、博多祇園山笠や博多松ばやしなど本市を代表する祭礼が町に賑わいと活気を与えています。

那珂・席田

博多から大宰府に向かう道筋にあり、弥生時代以来、低地を利用した水田が広がっていたこのエリアは、古代の条里制の名残を残す水田区画が昭和初期頃まで残されていました。弥生時代の古い時期の農村が確認された板付遺跡や雀居遺跡、弥生時代の共同墓地である金隈遺跡などを通じて、弥生文化に触れることができます。

警固・鳥飼

古代には鴻臚館、江戸時代には福岡城が存在したこのエリアは、海・陸の交通の要衝として発展しました。菅原道真ゆかりの水鏡天満宮に由来する「天神」の街は、現在、九州一の繁華街となっていますが、舞鶴・大濠公園に残された鴻臚館・福岡城の痕跡、街中にたたずむ近代建築、古い町割などから、往時のにぎわいに想いを馳せることができます

高宮・老司

鴻臚館から大宰府へ向かう官道の推定ルートがあるこのエリアは、古代から近代に至るまでの多彩な文化財が存在する地域です。初期横穴式石室に豊富な副葬品が納められた老司古墳や、大宰府観世音寺とも関係の深い三宅廃寺跡や老司瓦窯跡、近代に炭鉱で財を成した貝島家の旧邸宅などを通じて、本市の悠久の歴史を感じることができます。

樋井川・油山

大規模な寺域を誇った東油山泉福寺（現在の正覚寺）がある油山の麓に広がるこのエリアは、樋井川両岸の丘陵を中心に集落が営まれ続けてきました。山岳仏教が盛行し現在は市民の憩いの森として親しまれる油山、黒田藩主の別邸として作られた友泉亭庭園、田島神楽が奉納される田島八幡神社など、豊かな自然と歴史に触れることができます。

西新・姪浜

福岡平野と糸島平野をつなぐ海岸沿いに位置するこのエリアは、室見川沿いの微高地や、海岸の砂丘上を中心に、古い時代から人々の活発な活動が確認できます。弥生・古墳時代の交易拠点であった西新町遺跡や、古代早良郡の中心であった有田遺跡、元寇の記憶を今に伝える麁原山や元寇防塁、唐津街道の宿場町として栄えた港町・姪浜など、博多湾の港湾機能を支えてきた歴史を今に伝えています。

田隈・金武

油山と叶岳に挟まれ、室見川の恵みに育まれた肥沃な土地を持つこのエリアは、河川両岸の微高地や丘陵を中心に集落が展開してきました。弥生時代の拠点集落であった吉武高木遺跡や野方遺跡、丘陵斜面に営まれた大規模な古墳群、中世に大きな宗教的勢力を誇った西油山天福寺や飯盛神社、肥前と結ぶ三瀬街道沿いの町並みなど、連綿と続いてきた人々の営みを知ることができます。

内野・脇山

脊振山の豊かな自然に包まれたこのエリアは、中世の山岳信仰の隆盛とともに栄えた脊振山東門寺の寺領で、戦国時代には荒平城や池田城が築かれ、筑前と肥前の国境に位置する交通の要衝でした。山間部の水田開発には熊野比丘尼の伝承も残され、昭和天皇の即位時には大嘗祭に用いる新穀を穫るための主基斎田に選ばれるなど、山村と農村の様相を併せ持っています。

今宿・周船寺

糸島半島の付け根に位置するこのエリアは、古代山城である怡土城が築かれた高祖山を背後に、尾根筋や海岸砂丘を中心に集落が営まれてきました。弥生時代に玄武岩で石斧生産を行った今山遺跡や伊都国の交易拠点であった今宿五郎江遺跡、前方後円墳 13 基が築造された今宿古墳群、江戸時代の農学者・宮崎安貞ゆかりの史跡など、自然と共生してきた人々の暮らしを知ることができます。

北崎・今津

糸島半島の東半、博多湾の西端に位置するこのエリアは、福岡・博多と大陸・朝鮮半島を結ぶ交通の要衝として重要視されてきました。「庚寅銘大刀」が出土した元岡 G ６号墳や、遣唐使の寄港地であった韓亭（唐泊）、中世に港町として栄えた今津と寺院、海岸沿いに築造された元寇防塁など、海上交通に関わる史跡や習俗・信仰が良好に残されています。

能古島

博多湾に浮かぶ能古島は、江戸時代に廻船の根拠地の一つとして栄えました。一方で、古代の防人の設置、中世の外敵の侵入、江戸時代の台場の築造など、博多湾のまもりを大きく左右してきた島でもあります。また、古代は馬牧として、江戸時代には鹿狩りの場として利用されるなど、豊かな自然にも恵まれています。

玄界島・小呂島

志賀島と糸島半島の間に浮かぶ玄界島は、百合若伝説を伝える小鷹神社があり、近世には藩の遠見番所が置かれるなど、博多湾の玄関口に位置する離島です。一方、玄界灘に浮かぶ小呂島は、中世には海上交通の要所として、戦時中には陸海軍の要塞として重要な役割を果たしました。現在はハカタウツシの山笠行事も執り行われています。

3 文化財の保存活用の取組

目指す方向

福岡ならではの 2000 年都市の歴史文化を継承し、さらなる活力と魅力につなげる都市

2000 年以上続く交流拠点都市・福岡ならではの歴史と文化財の価値をより多くの人々と共有し、文化財の価値を**「都市の活力ーまちに生きる人の誇り」**や**「都市の魅力ーまちを訪れる人の感動」**の資源としていくことを目指し、市民や関係機関等との連携・協力のもと、文化財の総合的な保存活用に取り組んでいきます。

基本方針

知る

過去から受け継ぎ、未来へ伝えていくべき「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」について、文化財としての価値を定義し、価値を証する情報を集め、整理・体系化し、広く共有する調査研究の取組を推進していきます。

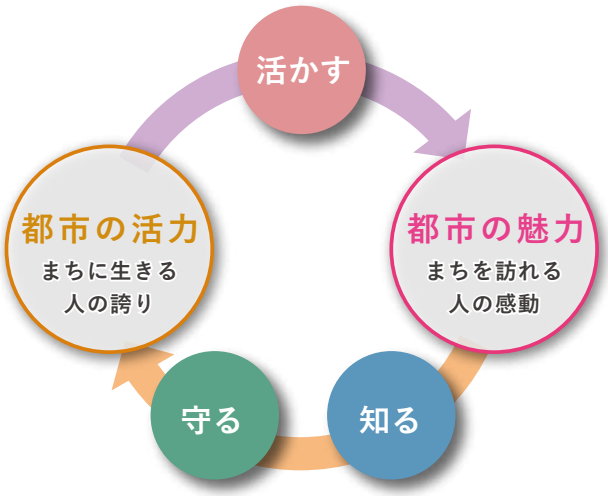
守る

文化財としての価値を見出した「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」を未来へ伝えていくために、様々な制度や環境を整え、劣化や変容を把握することで保存管理を行うとともに、修理復旧等の様々な対応を図っていきます。

活かす

「守る」取組とのバランスを図りながら、「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」が文化財として伝えている価値を、それぞれの特性に応じて、公開、観光振興、地域振興、学び・教育などの取組により都市の魅力の向上につなげていきます。

文化財の価値を「知る」・「守る」ことで市民の生活を豊かにし、都市の活力を生み出すとともに、文化財を観光や地域振興等の資源として「活かす」ことで、都市の魅力の向上につなげます。これを通じて、人々の文化財の「価値・資源性」に対する認識を高め、さらに「知る」「守る」ことが促進されるサイクルの構築に取り組みます。



「知る」・「守る」・「活かす」
取組のサイクルの構築

文化財を知る取組	**調査研究** 文化財を「知る」だけではなく、文化財を「守る」・「活かす」取組への展開を見据えた戦略的な調査研究と調査研究成果の整理、活用に取り組みます。私たちの身近にある文化財がストーリーやエリアにどのように関わっているのかを把握し、その成果を広く公開・周知することで文化財を「守る」・「活かす」取組につなげていきます。	戦略的な調査研究の推進	●文化財の詳細把握調査と価値付け
			●文化財の記録・情報化
			●文化財の総合的な把握
			●調査研究機関、専門家との連携
		調査研究成果の整理、公開	●報告書・目録等の作成とデータベース化
			●データベースの公開活用
			●調査成果の積極的な周知
文化財を守る取組	**保存管理** 文化財の適切な維持管理、災害や犯罪への対策、地域の伝統文化の継承に取り組みます。多くの人の参画を得ながら、持続可能な保存管理の実現に努めます。	適切な保存・維持管理	●博物館等の環境改善
			●地域の文化財の保存管理
			●史跡等の維持管理
			●埋蔵文化財の保存
		指定等の推進	ー
		災害や犯罪等への対策	●防災・防犯対策の推進
			●防災・防犯意識の啓発・向上
		地域の伝統文化の継承	●地域の伝統文化の保存と公開
			●継承への支援
	修理復旧 き損箇所の適切な修理復旧の実施や修理復旧への支援に取り組むほか、より多くの人々と連携することで、劣化防止の保存処理や修理に関する技術の維持向上に努めます。	文化財の修理復旧	●文化財の修理復旧の実施
			●文化財の修理復旧への支援
		修理技術の維持向上	●修理に関する情報の発信
			●専門機関、技術者との連携
文化財を活かす取組	**公開** 文化財の特性に応じた見せ方や楽しみ方を提供することで、文化財が有する価値とともに、福岡ならではの歴史文化を伝える公開活用に努めます。	文化財の公開促進	●文化財建造物の公開活用
			●展覧会・展示会の実施
			●資料閲覧への対応
		史跡の整備の推進	●史跡の特色や魅力を高める歴史環境の再現
			●整備にかかる財源の確保
		ガイダンスの充実	●ガイダンス施設の整備
			●ボランティアガイドと連携した解説
		コンテンツの拡充	●参加・体験する機会の提供
			●先端技術を活用したコンテンツの整備
			●文化財デジタルミュージアムの整備
	観光振興 市内に点在する文化財を群として捉え、歴史や文化を資源として活かす新たな観光振興に取り組みます。多様化する観光客のニーズ把握、ユニバーサルデザインへの対応を推進します。	ストーリーを活かした観光振興	●ストーリーに基づいた観光プログラムの開発
			●先端技術の活用
			●新たなストーリーの充実
		プロモーション活動の強化	●様々な媒体を活用した知的好奇心を刺激する情報発信
			●伝統工芸・伝統芸能の魅力発信
		ユニバーサルデザインへの対応	●多言語対応コンテンツの拡充
			●誰もが訪れやすい環境整備
			●インクルーシブデザインの導入
		MICE振興への寄与	●文化財を活かした特別感の創出
			●地域の魅力や伝統を活かした市民参加のおもてなし
	地域振興 地域の文化財の価値や魅力を掘り起し、地域に対する愛着や誇りを育みます。ストーリーを通して地域の文化財の価値を磨き上げ、地域内外に発信し、価値の共有を図ります。	地域の文化財の魅力の共有・発信	●地域の文化財の魅力発信
			●地域活動との連携体制の整備
		文化財を通じた地域交流の促進	●世代を超えた交流ができる文化財関連イベント等の開催
	学び・教育 文化財を「知る」取組で得られた成果をより多くの人々と共有し、見出された文化財の価値を体感してもらうために、文化財を活かした学び・教育を推進します。	学校教育への活用	●学校と連携した学習プログラムの構築
		生涯学習への活用	●文化財を活かした生涯学習の充実

4 文化財の保存活用の推進体制

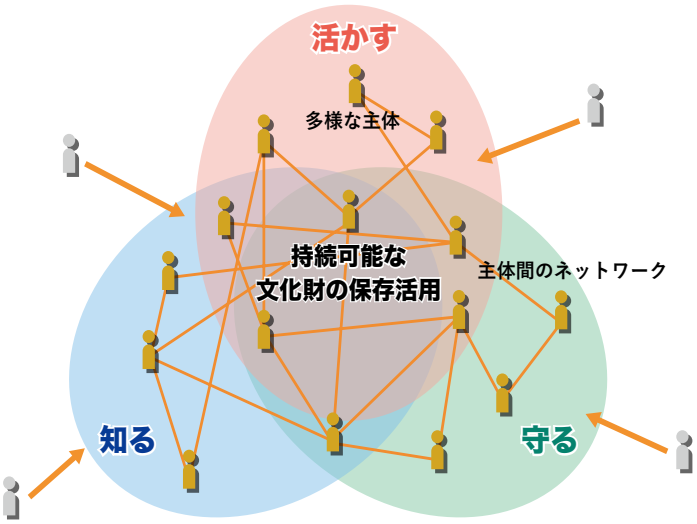
市民、地域コミュニティ、文化財の所有者や活動団体、企業、大学等研究教育機関などの様々な主体が、文化財を「知る」・「守る」・「活かす」取組に関わることによって、より多くの文化財の価値を社会に還元し、持続可能な保存活用の実現につなげていきます。

◆主体の意識や技術力の向上

文化財の保存活用に関わる主体の拡大や、意識・技術力の向上のため、様々な主体が活躍できる場の創出や、多様な人材の育成と確保に努めます。

◆主体間の横断的なネットワークづくり

各主体が連携・協力できる体制を構築するために、各主体間の交流や協力の促進による情報共有や、各主体の連携による事業の推進など、横断的な推進を図るためのネットワークづくりに取り組みます。



【各主体の役割】

市民	●文化財は市民共有の宝です。市民一人ひとりが歴史や文化に関心を持ち、地域の一員として文化財の保存活用の取組に参加することが期待されます。
地域コミュニティ	●文化財を通して地域の魅力を掘り起し、地域の宝である文化財を大切に守り伝えていく活動を推進していくことが期待されます。
文化財の所有者等	●文化財を適切に保存するとともに、文化財の公開等を通じて多くの人と価値の共有を図ることにより、次世代に継承していくことが期待されます。
NPO 等活動団体	●文化財を保存活用する活動のけん引役として、それぞれの創意工夫により自律的に活動を展開するとともに、市民の文化財への理解を広める役割が期待されます。
企業等	●企業等のノウハウや人材等を活かして、文化財の保存活用の重要な担い手になるとともに、支援者になることが期待されます。
大学等研究教育機関	●文化財の保存活用に関する分野において、人材育成と輩出を行うとともに、専門的な研究や分析、情報の蓄積や知見の提供、さらには地域の文化財の保存活用にかかる取組に参画していくことが期待されます。
行政	●市民が文化財を身近に感じ、保存活用の取組に参加しやすい環境を整えるとともに、文化振興、観光振興、伝統工芸の振興、まちづくり等の関連部局が連携を図りながら、文化財を「知る」・「守る」・「活かす」取組を総合的かつ計画的に推進します。 ●市民や関係団体等との連携を図り、取組の実施や支援に取り組みます。特に、文化財所管部署においては、様々な「もの」・「ばしょ」・「いとなみ」の価値評価や真正性の確保のため、また市民等からの相談に対して専門的立場から支援・助言できるよう、各分野の専門職員を育成・確保していきます。

福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針
～福岡市歴史文化基本構想～ 概要版
平成３１年３月
編集・発行 福岡市（経済観光文化局文化財活用課）